

[研究会記事] 歴史地震研究会だより 2010年7月～2011年6月

歴史地震研究会幹事会

目次

- ・ 前号以降の歴史地震研究会の活動(2010年7月～2011年6月)と今後の予定
- ・ 2009年度第5回歴史地震研究会幹事会(2010年8月27日)議事録
- ・ 第27回歴史地震研究会(2010年9月10～12日)報告
- ・ 第27回歴史地震研究会 総会(2010年9月11日)議事録
2009年度(2009年9月～2010年8月期)決算,
2010年度(2010年9月～2011年8月期)予算ならびに2010年度事業計画
- ・ 2010年度第1回歴史地震研究会幹事会(2010年11月15日)議事録
- ・ 2010年度第2回歴史地震研究会幹事会(2011年2月21日)議事録
- ・ 第28回歴史地震研究会(2011年9月16～18日)講演申し込み案内
- ・ 2010年度第3回歴史地震研究会幹事会(2011年6月6日)議事録
- ・ 第28回歴史地震研究会(2010年9月16～18日)のプログラム等
- ・ 『歴史地震』原稿募集のおしらせ
- ・ 歴史地震研究会会誌編集規程(2009年7月23日改定)
- ・ 歴代研究会開催地一覧
- ・ 歴史地震研究会への入会手続きのご案内
- ・ 歴史地震研究会会則
- ・ 歴史地震研究会役員および委員名簿(2011年7月1日現在)

歴史地震研究会の活動(2010年7月～2011年6月)と今後の予定

2010年

- 8月27日(金) 2009年度第5回歴史地震研究会幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月10日(金)～12日(日)第27回歴史地震研究会(東京都文京区 東京大学地震研究所)
 - 10日 研究発表会, シンポジウム, 懇親会
 - 11日 研究発表会, 総会
 - 12日 研究発表会, 東京都復興記念館見学会
- 11月15日(月) 2010年度第1回幹事会(地震予知総合研究振興会)

2011年

- 2月21日(月) 2010年度第2回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 3月17日(木) 東北地方太平洋沖地震の被災地の方々へお見舞い文公表
- 6月6日(月) 2010年度第3回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- (以下, 予定)
- 8月29日(月) 2010年度第4回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月16日(金)～18日(日)第28回歴史地震研究会(新潟市 新潟大学南キャンパスときめいと)

2009 年度第 5 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2010 年 8 月 27 日(金)17:00~19:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長), 武村(副会長), 小松原, 中村, 林, 松浦, 諸井(以上幹事), 石辺, 西山(以上行事)

議事

1. 総会準備

議長:島崎氏に依頼することに(武村)

議事の確認

1. 対外活動報告の報告(報告者:武村)

- ・ 学術会議協力学術研究会登録完了の件
- ・ 東京都慰霊堂・関東大震災資料調査会に歴史地震研究会は見学会の実施を提案・受理された。
- ・ 首都圏形成史研究会大会にて武村が講演, 北原がコメンテーターとして活動した。
- ・ 日本災害史事典の執筆に歴史地震研究会会員が協力している。
- ・ 内閣府中央防災会議「災害教訓の敬称に関する専門調査会」に歴史地震研究会会員が協力している。

2. 各委員会報告

- ・ 総務委員会(小松原)組織的な運営ができるようになったことを簡単に報告する。
- ・ 行事委員会(佐竹)活動状況を簡単にまとめ行事委員会から総務委員会に送ること。
- ・ 編集委員会(松浦)会誌編集状況を総務委員会に送ること。
- ・ 広報委員会(林) 活動状況報告を総務委員会に送ること。

3. 財務関係報告・予算案

- ・ 2010-2011 年度予算案について:収入のうち会費は 214 名全員納付を前提として計上する。支出のうち会誌送料は 1 冊 200 円・会誌印刷費は 850 円として計上する。東京大会補填は 3 万円とする。2011 年度大会予稿集はなるべく安価にすること。
- ・ 長期会費未納者への対応について:3 年間以上の滞納者には会に留まるか否かを尋ね, 退会希望者には未納分を請求した上で退会を承認する。連絡は財政幹事が行う。
- ・ 2009~2010 年度決算および 2010~2011 年度予算案を総会資料に加える。
- ・ 大津大会収支明細と 2009~2010 年度雑費内訳は監査に提出。

4. 次年度役員案

監査役:永井(継続)・中村操(継続):依頼は財政委員会から

会長:北原(継続)

副会長:武村(継続)

総務:小松原(継続)中村亮は退任

行事:矢田(新任)・穴倉(新任)・ト部(新任)

編集:松浦(継続)・金田(新任)・行谷(継続)・白石(新任)

財政:諸井(継続)

広報:林(継続)・小山(継続)

東京大会シンポジウム議事録まとめ:西山(新規)

(総会運営メモ修正点: ⑫会計⇒財務に, 総務から中村さんの名前を抜く)

2. 入退会申請者

新規入会申し込み 5 名(今井健太郎氏・原田智也氏・南雲秀樹氏・古川信雄氏・ト部厚志氏)

⇒全員承認

石井・小林・木股の 3 氏は 2 年度分会費を納入している。財政委員会で確認して必要なら 25 号を 3 氏に送るよ

う総務委員会に連絡することに. そのほかの新規入会者には 25 号を送付する必要なし.

3. 東京大会準備状況(行事委員会:西山・石辺)

1. 予稿集・研究発表について

- ・ 同一人によるポスターと口頭の同一タイトルでの発表について, 発表当日および会誌用原稿では2つの発表のタイトルを違うものとするよう行事委員から依頼する. (同名の発表は紛らわしい)
- ・ 発表申請時と予稿集原稿で発表者やタイトルが微妙に違う発表について, 本人に確認済み(行事委員会)

2. シンポジウム

- ・ 冒頭に平田所長挨拶
- ・ 最後に佐竹行事委員長の挨拶
- ・ 他はプログラム通り
- ・ 質問用紙は配布しない. 討論の運営は司会者の判断により臨機応変に.
- ・ シンポジウム等の張り紙は既に準備中. 武村氏の歴史地震研究会副会長, 佐竹氏の歴史地震研究会行事委員長の肩書きは削除すること.

3. 懇親会

懇親会には小澤氏は欠席予定

司会:佐竹氏

開会挨拶:北原氏

乾杯:石橋氏

挨拶1:矢田氏(18時すぎ):北原氏より依頼

挨拶2:佐藤氏

挨拶3:都司氏

閉会挨拶:佐竹氏

北原氏はスピーチなし

- ・ 矢田氏への連絡事項:懇親会と総会での挨拶を依頼する. (北原)
- ・ 招待者は学生アルバイト2名, 佐藤氏・平田氏の計4名
- ・ 27日現在の申込者で650円程度の黒字予定

4. 見学会について

- ・ 復興記念館見学会の参加者の名簿(8月31日段階)を, 非会員については住所・所属の情報を添えて, 添付ファイルで北原会長宛に送ること(行事委員会). この名簿を9月1日開催の慰霊祭に北原会長が持参する. それ以降の非会員の参加申し込みは不可.
- ・ 見学会は40名程度参加見込み. 約20名ごとの2班に分けて見学. 復興記念館の内部は高野氏が案内してくださる予定.
- ・ 見学会参加者はまず復興記念館に集まり, ついで慰霊堂を見学する.
- ・ 添付資料5の復興記念館へ行き案内は見学会の参加者だけに渡す.
- ・ 「ないふる」の関連記事(武村氏執筆)を参加者向けに用意する.

5. 小物類について

- ・ 領収証について:8月27日時点でまだ参加申込みが来る状況なので, 頃あいをみて作成する予定(行事委員会).
- ・ 名札ケース:復興記念館見学会・地震研入場に支障のないよう適当なものを購入する. (行事委員会の専決)

6. アルバイト・人員

- ・ シンポジウム(金曜)には1人~2人事務補佐員を地震研から派遣してもらえる可能性がある(9月3日に決定). 派遣してもらうことを歓迎する.
- ・ 行事委員で受付チェックリストを作成してアルバイトの学生が作業内容を全部分かるように指導する. 最低1

人は全部を把握していないと受付がスムーズにできないことに注意する。

- ・ 大会当日、働き手は9時に地震研集合;9時半から受付開始, 10時半開演.
- ・ アルバイトの給金は行事委員が立替, 後日財政委員会より支払う.

4. その他

- ・ 京都大学出版会から“Proceedings of the 14th International Conference of Historical Geographers, 2009 Kyoto”を寄贈された.
- ・ ⇒総務から礼状を出す. つくば(総務委員会)で他の図書と一緒に保管し, musha で会員向けに案内をまわす.
- ・ 次年度の日程については北原会長から矢田次期行事幹事に問い合わせる.
- ・ 第4種郵便認定について: 日本郵政から第4種郵便の扱いを継続するための手続きを求められている. 現状では会誌をメール便で送っているが, 日本郵政の申し入れに同対応するか? ⇒とりあえず今は対応しなくても良い. 必要になったら再度議論する.
- ・ 次々回大会について話し合いがなされた.

第27回歴史地震研究会(2010年9月10~12日)報告

姉川地震から100年を迎えた2009年, 滋賀県と大津市のご後援を頂いて滋賀県大津市にて9月12日(土)から14日(月)の日程で研究発表会・公開フォーラムおよび巡検を行いました. 研究発表会には58名が参加し, 33件(口頭25件, ポスター8件, 1件のキャンセルは含まず.)の発表がありました. また初日夕刻に懇親会が開催されました. 最終日の巡検には38名と滋賀県の方が3名途中まで参加されました.

会場: 大津市浜大津・明日都浜大津4階ふれあいプラザホール

日程: 2010年 9月10日(金) 午前, 11日(土), 12日(日) 午前, 研究発表会
9月10日(金) 午後 シンポジウム
9月10日(金) 夕刻 懇親会
9月11日(土) 夕刻 総会
9月12日(日) 午後 東京都復興記念館見学会

プログラムは以下の通りです.

9月10日(金) 研究発表会一日目, シンポジウム, 懇親会(東京大学地震研究所)

10:10~10:20 開催挨拶及び諸連絡

10:20~11:00 防災教訓 (座長: 林能成)

1. *木村玲欧・宮村攝三(故人): 埋もれていた被災者実態調査 ~宮村攝三が行った「1948 福井地震通信調査」
2. 中西一郎: 1923年関東地震直後の京都帝国大学の活動: 京都大学に残る記録

11:20~12:00 地震・火山カタログ (座長: 石辺岳男)

3. *石橋克彦・古代中世地震史料研究会: [古代・中世]地震・噴火史料データベース
4. 秋教昇・朴昌業・*都司嘉宣: 白頭山の歴史時代の火山活動

シンポジウム: 「描かれた江戸, 撮された東京」

司会: 武村雅之 (小堀鐸二研究所副所長)

13:30~13:35 開会挨拶 佐竹健治(東京大学地震研究所副所長)

13:35~14:20 「描かれた江戸のイメージ」小澤 弘(江戸東京博物館都市歴史研究室長・教授)

14:20~15:05 「撮された占領下の東京」佐藤洋一(早稲田大学教授)

15:05~15:15 休憩

15:15～16:00 「変わらぬ江戸・変わる東京」北原糸子(立命館大学教授)

16:00～16:10 休憩

16:10～16:55 質問・討論

16:55～17:00 閉会挨拶 平田直(東京大学地震研究所所長)

17:15～19:15 懇親会(於:東京大学地震研究所 1号館 7階ラウンジ)

9月11日(土) 研究発表会二日目, 総会(東京大学地震研究所)

09:30～10:30 防災教訓 (座長:藤原治)

5. 羽鳥徳太郎: 四国西部・九州東部沿岸における宝永(1707), 安政(1854)南海津波の波高増幅度

6. *宍倉正展・行谷佑一: 足摺岬における宝永・安政・昭和南海地震の地殻変動

7. 松浦律子・中村操・唐鎌郁夫: 松浦律子・中村操・唐鎌郁夫

10:50～11:50 近世の地震 (座長:白石睦弥)

8. *都司嘉宣・松岡祐也: 安政南海地震(1854)による土佐国の死者分布

9. 西山昭仁: 文禄五年(1596)伏見地震における京都盆地での被害状況

10. 松浦律子: 1861年文久宮城の地震の震源域再々考

13:30～14:30 ポスター発表

11. *松浦律子・岩佐幸治・出町知嗣・古村美津子・関根真弓・鈴木保典・中村操: 1833年出羽沖地震の震源域について

12. *石井寿・中村亮一・植竹富一・宇佐美龍夫・渡邊健: 天保四年(1833年)山形沖地震津波の調査

13. *白石睦弥・檜垣大助・古澤和之: 1793寛政西津軽地震に関する一考察(その1)

14. *都司嘉宣・松岡祐也: 安政江戸地震(1855)による江戸市中の町別死者数

15. *金幸隆・吾妻崇: 六日町断層の分布とその活動履歴

16. *今井健太郎・西山昭仁・前田拓人・石辺岳男・佐竹健治・古村孝志: 史料に基づく1707年宝永地震の発震時刻に関する統計的解釈

キャンセル: 井若和久・上月康則・山中亮一・村上仁士: 徳島県美波町における1946年昭和南海地震津波での避難行動について

17. 武村雅之: 関東大震災による寺院移転: 「得生院誌」をめぐって

18. *古川信雄・Phyo Maung Maung: プレート境界である, ミャンマーのサガン断層近傍のM7クラス歴史地震(1918年以降)の震源再決定によるサガン断層の地震履歴

14:30～15:50 越後・佐渡の地震 (座長:佐竹健治)

19. 石橋克彦: 1670年寛文越後地震の震源域

20. *南雲秀樹・菅原正晴・中村亮一・植竹富一: 震度データと上下動地殻変動データに基づく享和2年(1802年)佐渡小木地震の断層モデルの推定

21. *都司嘉宣・西山昭仁: 寛延四年(1751)越後高田地震および文政十一年(1828)越後三条地震の村落別死者数

22. 河内一男: 1828年三条地震の震央は平野中央部であったか

14:30～15:50 天然ダムと堆積物 (座長:小松原琢)

23. 早川由紀夫: 信濃北部地震と平安砂層

24. 井上公夫: 長野県中・北部で形成された巨大天然ダムの事例紹介ー八ヶ岳大月川岩層なだれと姫川・岩戸山の大規模地すべりー

25. *藤原治・平川一臣・入月俊明・長谷川四郎・鎌滝孝信・原口強・内田淳一・阿部恒平: 千葉県館山市の海浜堆積物に見られる9世紀以降の津波(?)イベント堆積物

26. *島崎邦彦・金幸隆・千葉崇・石辺岳男・松岡裕美・岡村眞・都司嘉宣・佐竹健治: 三浦半島における関東地震起源の津波堆積物の認定と歴史地震

17:45～18:45 歴史地震研究会総会

9月12日(日) 研究発表会・見学会(東京大学地震研究所)

09:30～10:50 東北の地震 (座長:西山昭仁)

27. 松岡祐也:『日本三代実録』仁和三年五月廿日条の地震記述について—出羽国府周辺で起きた自然災害の検討—
28. 檜垣大助・*白石睦弥・古澤和之:1793 寛政西津軽地震に関する一考察(その2)
29. 白石睦弥:『金木屋日記』に見る幕末の災害情報
30. *神田克久・武村雅之:震度インバージョン解析を用いた 1900 年前後の地震の震源位置と地震規模の評価

11:10～12:10 関東の地震 (座長:松岡祐也)

31. *中村操・松浦律子:1855 年安政江戸地震の被害と震源
32. *石辺岳男・西山昭仁・佐竹健治・島崎邦彦:1885 年以降の「M7 級首都直下地震」の類型化(序報)
33. 武村雅之:東京の街に残る関東大震災の跡

14:00～17:00 東京都復興記念館見学会

場所:東京都墨田区横網 2-3-25 横網町公園内

最寄り駅:都営地下鉄大江戸線「両国」駅(E12)下車徒歩 7 分

(東京大学地震研究所から東京都復興記念館までの所要時間約 40 分)

第 27 回歴史地震研究会 総会議事録

日時: 2010 年 9 月 11 日(土)17:45～18:30

場所: 東京大学地震研究所 1 号館 3 階セミナー室 A・B(東京都文京区)

- ・総会には全会員数 215 名(2010/9/1 時点)の 10 分の 1 の実出席を要する。定足数 22 名を上回る 32 名の会員が出席し会員 8 名の委任状により総会の成立を確認。
- ・会長挨拶(北原会長):18 年ぶりの地震研究所における大会となった。活発な討論が行われた盛会となっている。会員を対象としたシンポジウムは新鮮に感じられた。
- ・武村副会長が島崎会員を推薦し、拍手により同氏を議長に選出。島崎会員が議長席につき、以下の議案につき審議を行った。

議事

1. 2009 年度活動報告

対外的活動の報告(武村副会長)

本年度、歴史地震研究会は下記の対外的活動を行った。

- ・「日本学術会議協力学術研究団体」登録を申請・受理された。
- ・財団法人東京都慰霊協会・関東大震災資料調査会において、北原会長が東京都慰霊堂の資料調査と利活用促進に向けた活動を行い、2010 年度大会行事に慰霊堂見学の提案・受理された。
- ・首都圏形成史研究会大会(4 月 24 日於神奈川県立歴史博物館)の後援団体として、副会長武村雅之が講演、会長北原はコメンテーターとして参加した。
- ・日本災害史事典の執筆に歴史地震研究会会員が協力している。
- ・内閣府中央防災会議「災害教訓の敬称に関する専門調査会」に歴史地震研究会会員が協力している。

2. 各委員会報告

総務委員会(小松原総務幹事):中村総務委員と共に 5 回の幹事会を開催し、行事の進め方などを議論して

きた。会員数 200 人超の規模に対応する組織運営が軌道に乗ってきたと感じている。

行事委員会(佐竹行事幹事)：西山・石辺両委員の尽力により地震研究所と共催で開催することができた。地震研究所の意向により学生の参加費は無料とした。

編集委員会(松浦編集幹事)：日本学術会議への協力学術研究団体申請が受理され、「歴史地震」は学術団体の学術雑誌として、通常の大等研究機関の紀要(機関内学術誌)より上位の雑誌としての資格を得た。投稿規定が明文化され、23 号から本格運用となって三年目でこそその成果である。徐々に査読の質を上げてきているが、それが学術雑誌としての地位を保つ重要な要件であるので、投稿後のやりとりを成長の機会と捉えて存分に生かして頂き、この学際的分野の研究の発展に寄与することを会員各位に改めてお願いしたい。

広報委員会(林広報幹事)：メーリングリスト musha および学会ホームページを通じた迅速な情報提供を進めた。大会への発表募集の案内や、公開シンポジウムについての告知については日本地震学会ニューズレターにも掲載し広く周知した。

3. 2009 年度決算および入退会者報告(諸井財政幹事)

- ・ 下表「歴史地震研究会 2009-2010 年度 決算報告」を参照。
- ・ 収入 ¥1,965,932(前年度繰越金含む) 支出 ¥677,805
- ・ 前年度繰越金 ¥1,434,911 次年度繰越金 ¥1,288,127
- ・ 会誌口絵代 66,000 円は次年度の収入になる見込み
- ・ 新規入会者は 14 名, 退会者 4 名
- ・ 2010 年 9 月 1 日における会員数は 215 名

歴史地震研究会 2009-2010 年度 決算報告

	項目	予算額	決算額	増減	内訳
収入	2009-2010 年度会費	570,000	522,000	-48,000	174 名×3000 円
	2009-2010 年度以前会費(未払い者)	0	9,000	9,000	
	会誌バックナンバー売り上げ	0	0	0	
	会誌口絵代	0	0	0	
	銀行利息	0	21	21	
	前年度繰越	1,434,911	1,434,911	0	
	合計	2,004,911	1,965,932	-38,979	

支出	大津大会補填	50,000	111,020	61,020	450 部,消費税込 封筒代, 消費税, 振込料込 振込料込
	東京大会準備費	10,000	0	-10,000	
	歴史地震 25 号印刷代	360,000	388,867	28,867	
	会誌送付代	64,000	96,684	32,684	
	HP 管理費	12,000	12,210	210	
	会議費	100,000	10,940	-89,060	
	雑費(通信費・消耗品費など)	60,000	58,084	-1,916	
	合計	656,000	677,805	21,805	

次年度繰越金	1,348,911	1,288,127	-60,784
--------	-----------	-----------	---------

注)会誌口絵代 66,000 円(3 ページ分)が 2010 年度に収入となる見込み

2009 年大津大会収支

	項目	金額	内訳
収 入	資料代	27,000	500 円×54 名
	懇親会会費	272,000	6000 円×42 名+4000 円×5 名
	巡検参加費	188,300	5000 円×37 名+3300 円×1 名
	滋賀県より寄付	10,000	
	歴史地震研究会より補填	111,020	
	合計	608,320	
支 出	予稿集印刷代	47,460	80 部, 消費税, 振込料 420 円込
	巡検費用	189,310	バス代, 保険料, 昼食費, 資料代等
	懇親会代金	316,340	5300 円×53 名, サービス料他
	アルバイト代	48,000	12000 円×2 日×2 人
	お茶代	2,400	講師お茶代
	雑費	4,810	用紙代, コピー代他
	合計	608,320	

4. 2009 年度会計監査報告(永井会計監査役)

- ・ 別紙「歴史地震研究会 2009-2010 年度 決算報告」の内容について、帳簿等を確認して了承。帳票など全部を確認して正しく記載されていることを確認した。
- ・ 年間収入の 2 倍以上の繰越金は多いと感じるが、今すぐ問題となる程度ではない。公共図書館などへの 200 部の無償配布は社会的活動として意味が大きい。学会会議登録も喜ぶべきこと。活動方針が会員の意向とあっているかという点に関しても、会員 200 名超という中でよくやっていると認める。

5. 質疑

質問・意見なし

6. 2009 年度決算承認

別紙「歴史地震研究会 2009-2010 年度 決算報告」の内容について、全会一致で承認。

7. 役員選出

- ・ 次期会長の推薦
これまでのところ立候補表明がなかった。現幹事会として現北原会長を推薦する。(小松原総務幹事)
総会参加者の中で立候補者を募った(武村副会長)が会場からの立候補なし。
北原現会長の留任が全会一致で承認された。

- ・ 次期監査役
幹事会と監査は独立した存在だが、承認を受けられるなら永井九一氏と中村操氏に留任して欲しい(小松原総務幹事) 全会一致で承認。

8. 会長挨拶

「歴史系の人々が災害の研究をすることで、新しい災害像を作り出すことに貢献できればと望んでいる。学術団体としてふさわしい努力をせよという編集長の激励を受け止め、いろいろな領域で新しい内容の研究ができるように進化していきたい。1 年間会長を勤めることとなったが、会員各位の協力をお願いする。」と所信表明。

9. 役員指名(北原会長)

会長が各幹事を指名。

副会長:武村雅之氏(留任)
 総務幹事:小松原琢氏(留任)
 広報幹事:林能成氏(留任)
 編集出版幹事:松浦律子氏(留任)
 財政幹事:諸井孝文氏(留任)
 行事幹事:矢田俊文会員(佐竹行事幹事より引継ぎ)

10. 新年度役員就任挨拶

各役員から各々の業務に関する抱負の表明。

11. 次年度大会の計画(矢田行事幹事)

2011年9月16日～18日に新潟大学駅南キャンパスにて開催を計画中。

12. 2010年度予算と同年度事業計画(諸井財政幹事)

歴史地震研究会は、2010年度(2010年9月～2011年8月)に、下表の予算で以下の事業を実施する。

1. 第28回歴史地震研究発表会を、2011年9月半ばに新潟大学駅南キャンパスで開催する準備をする。
 2. 会誌『歴史地震』第26号を450部発行する。うち、200部は公的機関に配布する。
 3. その他、必要な事業
- ・ 別紙「歴史地震研究会 2010-2011年度 予算案」を参照。
 - ・ 収入:会費¥645,000(215名×¥3,000)
 - ・ 支出:¥784,500

質疑：ホームページ管理費は月額か年額か？

→年額である(諸井財政幹事)。

歴史地震研究会 2010-2011年度 予算案

項目		予算額	内訳
収入	会費	645,000	215名×3000円
	前年度繰越	1,288,127	
	合計	1,933,127	
支出	会誌印刷費(歴史地震26号)	382,500	(850円×450部)
	会誌送料	80,000	(200円×400部)
	HP管理費	12,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	60,000	
	会議費	100,000	
	東京大会補填	50,000	
	次回大会準備費	100,000	
合計	784,500		
次年度繰越金		1,148,627	

9月1日時点の会員数:215名(新規入会14名,退会4名,長期会費未納者1名,行方不明0名)

新規入会者:前嶋美紀,大邑潤三,土田洋一,東 幸代,神田克久,石井 寿,小林健彦,木股文昭,今井健太郎,原田智也,南雲秀樹,古川信雄,卜部厚志,長谷川修一(敬称略,入会順)

13. 2010年度予算承認

別紙「歴史地震研究会 2010-2011年度 予算案」の内容について、全会一致で承認。

14. その他

特になし

15. 閉会(武村副会長)

2010 年度第 1 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2010 年 11 月 15 日(月)15:00~17:40

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長), 武村(副会長), 小松原, 松浦, 矢田, 諸井(以上, 幹事), 宍倉(行事委員)

議事

1. 幹事の役割分担について

規約を確認

会誌の発送は編集委員会が行うが、個別にバックナンバーの請求があった場合に総務委員会で対応する。

新潟大学の行事委員への業務の集中を避けるため、プログラムの編成・印刷などは関東在住の行事委員他幹事が分担・協力して行う。新潟で行ったほうが良いことは、新潟大学の行事委員が担当する。

会誌原稿募集要項・総会報告は、編集委員会で作成し、財政幹事が発送

編集委員会出席のための遠距離旅費は支出可能か?(編集幹事)→支出可能である(財政幹事)

2. 前回大会の総括と 2011 年度大会の経費・予算について

- 2010 年大会の収支報告は適正で問題なし。(全員一致)
- 新潟でアルバイトのあては?→学生・院生を呼ぶことができる。専門知識を要することは卜部行事委員に頼むことができる。(矢田行事幹事)
- 準備費として 10 万円を用意している。この予算をオーバーしてしまった場合には次年度に補填する。(財政幹事)

補足説明:会計年度が 8 月末のため、大会関連費は大会の前年度の大会準備費と、大会当年度の補填の 2 年度にまたがって予算を組んでいる。2010 年大会では巡検がなかったので、大会関係費は額が変わってくると予想される。2010 年度大会経費以外にバス代・保険代などが加わってくる。過去の大会の収支は「歴史地震」の最後のページに書かれている。

3. 新潟大会の内容について

- 公開講演会

趣旨説明(矢田行事幹事):地震動と地盤災害を区別した歴史地震被害像を話題とする。たとえば宝暦(寛延)高田地震は斜面災害と堰止湖の決壊による被害が大きい、それらと震動被害は区別できる。そのような視点で新潟県周辺の地震について講演する。

質疑応答

- ・ 地震ごとに講演者を変えるのか?現象によって話者を変えるのか?(副会長)⇒地震ごとにいろいろな観点から話題を提供すればよいと思う。(行事幹事)
- ・ 慶長会津地震 400 年にあたるので天然ダムの話題を出すこともできる。会津地震による堰止湖の水抜き工事の話は文献史料にも記載されて興味深い。会津地震を含めても良いと思っている。宝暦高田地震は巡検とセットとするのでぜひ入れたい。(行事幹事)
- ・ 歴史系の人講演がほしい。会員の知識を広げる話がほしい。(会長)
- ・ 具体的な講演内容等について ()内は講演者
- ・ 1751 年宝暦高田地震(矢田)1828 年文政三条地震(矢田)1847 年弘化善光寺地震(松浦)2004 年中越地震(卜部)
- ・ 各地震について砂災害・地盤災害と地震動を分けて論じることとする。

- ・ 司会は武村副会長が行う, 講演者は事前に司会者に内容を伝えること
- ・ 公開シンポの題名はこれから検討する. 1案として「越後北信の地震史話」が上がる.
- ・ 講演者は上記の3人, 1人の講演時間は45分とする.
- ・ 質問・討論の時間を設ける.
- ・ 途中で休憩時間をはさむようにする.

- 巡検について

趣旨説明(矢田行事幹事):テーマは「高田地震による被災地を歩く」として, 上越～名立にかけての宝暦高田地震の斜面災害箇所を中心に巡検する. 被害箇所の検証と見学地点はト部行事委員が下見する.

行程案:新潟市内 8時発, 10時現場到着, 解散は直江津駅 15:30(関東方面), 新潟駅 17:30 新潟空港 18:00(関西方面)程度でどうだろうか.

食事場所:雨天・晴天ともに立ち寄る場所(うみてらす名立)に事前予約する. バス会社との交渉も新潟大学で行う.

下見:ト部行事委員に願います. 下見に要した経費は研究会に請求してほしい. 可能な限り領収証付きで請求してほしい.

参加者数など:先着順で40名(中型バスに乗れるまで)とする. バスは中型バス1台とする.

そのほか:有名な「名立崩れの絵図」は幕府領の範囲(名立村)の状況を記載していない=歴史的に意味がある.

- 開催形式について:

「主催:新潟大学復興科学センター」とするか「主催:新潟大学復興科学センター・歴史地震研究会」とするか→歴史地震研究会としては両者併記を希望する. それが可能かどうか新潟大学に打診する. (担当は新潟大学行事委員)

新潟県, 新潟日報に後援に入ってもらうか打診する(担当は新潟大学行事委員)

新潟大学から新潟日報に向けて公開講演会を開催することを報告している.

- 会場について:

すでに16日と17日の午前・午後の講義室A+B(約100人収容), ミーティングルームA+Bと多目的ホールを押さえている. ミーティングルームBはキャンセルしても良い. 16日(金曜)は夜も会場を使用したいので追加予約する(新潟大学行事委員会). 会場は8時30分から使用できる.

多目的ホール(150平米)でポスター展示. 新潟大学所蔵史料の地震に関する展示とともに展示する. ポスターは最大で20枚程度と見込まれ, 約50平米のスペースに展示. 同じホールの100平米を利用して1～2週間程度, 新潟大学収蔵の地震関係資料を展示する.

日程:16日午前(9時ごろ)～夜まで研究発表会と総会, 17日午前研究発表会, 午後公開講演会, 夜に懇親会, 18日巡検とする.

- 今後のスケジュール:

- ・ 3月10日までに開催形式(主催・共催・後援), 公開講演会のタイトル, 講演者, 演題を確定. 同時に行事委員会メンバーリスト(矢田・ト部・宍倉・小松原)作成
- ・ 4月初旬にはがきで会員向けに通知. 発表申し込み・巡検・懇親会参加者の募集
- ・ 5月末発表申し込み締め切り
- ・ 7月末予稿原稿, 巡検・懇親会の参加者募集締め切り
- ・ 8月初旬プログラム編成
- ・ 8月～9月初旬予稿集印刷, 後援機関・報道機関事前説明など

- 懇親会について(予約担当は新潟大学行事委員会)

- ・ 50名程度参加見込み
 - ・ 立食形式で費用は1人あたり4000～6000円程度
 - ・ チサンホテルではどうか？
- 役割分担
 - ・ 新潟で行った方がよいことは新潟大学の行事委員が担当する。
 - ・ プログラム編成・予稿集印刷・領収証の作成・巡検保険申請・会計取りまとめは宍倉行事委員が担当する。

4. 後援名義使用について

日本地震工学会主催第1回震災予防講演会「大津波襲来の予感:2010チリ地震を巡って」(2011年2月4日)の後援名義使用について研究会として後援名義使用を承認する。名義使用許可書類は財政幹事が送付する。広報幹事にリンクを張るように要請する(担当は副会長)

5. 入退会承認

長谷川修一さん(前年度)・浪川幹夫さん・田口尋子さん・児島恵さん・蔡垂功さんの5名の入会を承認

6. 2012年度の大会について

2012年度大会を横浜で開催できないか打診、松本さん(首都圏形成史研究会・開港史資料館学芸員)を窓口として開港史資料館で開催できないか調整している。(副会長)

質疑応答

関東地震の90周年の前年のイベントとしてやっても良いのではないかと？開港資料館の周囲にも多くの巡検の見所がある。

横浜市内の3つの博物館にそれぞれ関東地震を研究している歴史系研究者がいるので彼らの交流の場となることを期待する。横浜は地震防災に対する市民の関心が高い土地なので、期待が持てる。(会長)

→2012年大会は横浜で開催することを全員で承認。

第2回幹事会の日程

2月21日(月)16時から地震予知総合研究振興会会議室にて開催する予定。

2010年度第2回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2011年2月21日(月)16:00～18:30

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長), 武村(副会長), 小松原, 林, 松浦, 諸井, 矢田(以上, 幹事), 卜部(行事委員)

議事

1. 新潟大会関連事項

● 会場関係

大会期間中(9月16日～17日)の新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」の利用を申請し・許可された。

利用する部屋は, 100人講義室A・B, 20人会議室および多目的スペース。

利用時間は, 16日8:30～19:00, 17日8:30～17:30とする。

多目的スペースを利用して新潟大学附属図書館が歴史地震史料展(仮称)を同時開催する予定。なお多目的スペースのうち約50㎡は, 歴史地震研究会のポスター会場として使用する。

歴史地震史料展について:新潟大学の矢田・卜部両行事委員が全面的に協力して開催する。史料展にかかわる会場費は新潟大学が負担する。

● 公開講演会および開催形式

公開講演会の名称は「越後・北信の歴史地震と地盤災害」とする。

公開講演会の日時は17日 14:00～17:00とする。

講演者は矢田会員・ト部会員・松浦会員、司会は武村会員、講演は各人 40 分、講演後に討論の時間を設ける。

具体的には2名の講演後に休憩を挟んで1名の講演および討論。

シンポジウムとするか講演＋質疑応答とするか、今後協議する。

公開講演会の参加費は無料とすることが望ましい。公開講演会の配布資料はお金のかからない方法で作成する。

4月1日に新潟大学災害・復興科学研究所が改組・設立されることになり、その組織設立まで開催形式(主催・共催・後援)は決められない。新年度になってから改めて協議すること。

新潟大学に歴史地震研究会から協力(名義使用許可など)をお願いする際の添付資料として、上記の講演会名に加えて講演者の氏名と演題を明記することが必要。このため、3月末までに講演者の間で連絡をとりあって演題を決めること。

● 研究発表会

時間内に収まるように、場合によってはポスター発表に回ってもらうこともありうる。

プログラムは宍倉行事委員が編成する。

できる限り若手・新入会員を招くようにする。

研究発表会の参加費は予稿集代実費(1000円程度)とする。公開講演会の配布資料と研究発表会の予稿集は別々に作る。

● 巡検

出発は大会会場直近のバスターミナルとする。

解散場所は直江津・新潟空港・新潟駅前の3箇所とし、参加者が無理なく帰宅できるような時間配分を組む。なお近年の巡検参加者は東海道新幹線沿線と弘前・徳島など。

巡検は40人の中型バス1台で行う。

次回幹事会までに見積もりをお願いする。担当はト部行事委員

● 懇親会

懇親会は、ときめいとと同じ建物にあるチサンホテルにて、9月17日 17:30～19:30に開催する。

立食形式で1人あたり5000円・飲み放題コース、人数約50人で仮予約を取った。

飲み物代金は人数分必要だが、食事は適当に減らすことが可能。院生・学生等の割引を設け(飲み物代のみ)、不足が出た場合には研究会から補填する。

懇親会参加者は7月末日までに申し込むことになっている。8月中旬には人数が確定する見込み。チサンホテルに対する参加者数の最終連絡は9月でも可。

● 申し込み受付・広報

3月10日までに、大会の概要(日程・巡検など)と講演等申し込み受付に関するお知らせ(第一報)を、会員向けのはがき、研究会ホームページ、musha、地震学会ニュースレターなどによって広報する。

広報原稿は宍倉行事委員・小松原総務委員で原案を作り、矢田・ト部両行事委員が内容を検討したあと、幹事会メンバーに送る。はがき用原稿とウェブサイトや地震学会ニュースレター用の原稿をそれぞれ諸井・林に送る。

第一報では開催形式(主催・後援など)を明記せず、単に歴史地震研究会の大会としてお知らせする。開催形式が確定した後に、そのことを通知する。

各種資料の作成期限とお知らせの予定は次の通り。

- ・ 第一報(開催概要と各種申し込みのあて先・締め切り告知):3月10日
- ・ 新潟大学向け申請書に必要な資料作成:4月末日ごろ?(状況次第)
- ・ 講演申し込み(演者と演題・口頭かポスターか):5月末日
- ・ 第二報(開催形式・プログラム・参加費・詳細スケジュール):7月10日

- ・ 予稿集原稿締め切り:7月末日
- ・ 懇親会・巡検参加申し込み締め切り:7月末日
- ・ プログラム確定:8月上旬
- ・ 報道機関向け資料・大判ポスターなど:8月中旬

● その他

大津大会の巡検・懇親会などの収支簿を諸井財政幹事からト部行事委員に送る。

行事用にメーリングリスト(rekishi.11@m.aist.go.jp)を作成したが、正常に投稿できるか確認すること。(行事委員会以外)

2. 入退会報告(財政幹事)

以下の3人より入会申請。全員一致で承認。

小山真紀さん・吉田律人さん・世古忠さん

退会者なし。

会員数は総計222人に。

3. 2012年度の大会について

北原会長と横浜市ふるさと歴史財団・横浜市史資料室の吉田新会員が話し合い、横浜市の関連機関は市内で開催することに積極的との感触を得る。横浜市立開港資料館の松本館長は同館での大会開催を快諾。高村先生が大会の世話をしてくれる見込み。

幹事会として2012年大会を横浜市で開催するべく総会に提案する。

新年度になったら北原会長・武村副会長が挨拶に伺う。また2012年行事委員として、正式に吉田新会員に就任を依頼する。吉田新会員の上司にも話を通す必要がある。吉田新会員に加え、北原会長、宍倉行事委員・小松原総務委員などが協力して大会運営を進める。職務上吉田新会員の勤務時間中に会議のため東京まで呼び出すことは難しいと考えられるので、休館日(月曜)に会議を開催するなど、当人の状況に配慮する必要がある。

4. 会誌投稿状況

現在6編の論文が寄稿されている。西山旧行事委員から講演会のまとめが来ない。小松原が催促する。もう少し、寄稿を求める。

編集委員会を開催する余裕がないので、松浦編集幹事からメールで各編集担当者や査読者あてに直接原稿を回す。前号のWeb用原稿は準備中。

5.その他

松浦編集幹事が、学術会議発行の学術団体名鑑に掲載されるための資料を作成している。原稿案ができた時点で幹事会にメールでまわす。所在地は地震研究所、連絡先は地震予知振興会とする。

第3回幹事会の日程

6月6日(月)16時から地震予知総合研究振興会会議室にて開催する予定。

第28回歴史地震研究会(2011年9月16～18日)講演申し込み案内

■第28回歴史地震研究会(新潟大会)のお知らせ 第1報

歴史地震研究会では、9月16日(金)から18日(日)の3日間にわたって、新潟市にある新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」で第28回歴史地震研究会大会を開催いたします。

日程：9月16日(金) 午前・午後 研究発表会1日目 夕方 歴史地震研究会総会
9月17日(土) 午前 研究発表会2日目 午後 公開講演会「越後・北信の歴史地震と地盤災害」
夕方 懇親会

9月18日(日)巡検(1751年高田地震による名立崩れ跡など見学予定)

会場：新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」JR新潟駅南口から徒歩1分 PLAKA1 2階

懇親会は研究発表会会場と同じ建物にあるチサンホテル新潟にて開催

研究発表の申し込み：電子メールまたはファックスにて発表者リスト，発表タイトル，希望発表形式(口頭・ポスター・いずれも可)をお知らせ下さい(5月末日必着)。

発表形式は必ずしもご希望に沿えない場合があることをご了承願います。なお，口頭発表ではPC接続可能な液晶プロジェクタ(PCは発表者が持参願います)が使用できます。OHP，スライドプロジェクタは使用できませんのでご注意願います。

※研究発表申し込みの送付先：

電子メールの場合：rekishi.11[@]m.aist.go.jp(行事委員会：矢田俊文，卜部厚志，宍倉正展)

※メールを送る場合は[]をとってください。

郵送・ファックスの場合：〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1中央第7

産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター 宍倉正展 宛

ファックス：029-861-3803

予稿原稿の投稿：発表1件につきA4サイズ1ページ，カメラレディ(そのまま印刷可能な)原稿をご用意願います。白黒印刷に配慮した作成(特に図や写真)をお願いいたします。原稿は原則としてWordファイルを電子メールでお送りください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7月末日必着といたします。

※予稿原稿の送付先：研究発表申込先と同じです。

懇親会・巡検の申し込み：電子メール，ファックス，郵便のいずれかにてお申し込み下さい(7月末日必着)。

巡検の申込においては保険加入のため，氏名のほか住所・生年月日・電話番号(携帯可)をお知らせください。

巡検のバスは定員39名ですのでお申し込みは先着順となります。

※懇親会・巡検の申し込み先：研究発表申込先と同じです。

参加費(予定)： 研究発表会(資料代込)：1000円程度，懇親会：5000円程度(学生割引有)，

巡検：5000円程度

注意事項：研究会では宿泊の手配はいたしません。新潟駅周辺には多くのホテルがございますので，旅行会社や宿泊紹介サイト等をご参照いただき，各自ご予約ください。また，昼食は新潟駅周辺の各種レストラン等をご利用ください。以下に会場そば(新潟駅南口側)の主要なホテルを記しておきます。このほか新潟駅万代口側にも格安ホテルから高級ホテルまでたくさんございます。

チサンホテル新潟 シングル¥6,900～，ツイン¥14,000～ Tel: 025-240-2111

ホテルターミナルイン シングル¥5,670～，ツイン¥10,815～ Tel: 025-245-1100

ターミナルアートイン シングル¥6,090～，ツイン¥11,760～ Tel: 025-246-7111

新潟パークホテル シングル¥5,460～，ツイン¥9,240～ Tel: 025-245-5571

プログラム等研究発表会の詳細は次号(7月発行)の地震学会ニューズレターと歴史地震研究会ホームページにてお知らせする予定です。

2010年度第3回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時：2011年6月6日(月)16:00～18:30

場所：地震予知総合研究振興会会議室

出席者：北原(会長)，武村(副会長)，小松原，林，松浦，矢田，諸井(以上，幹事)卜部(行事委員)

議事

1. 新潟大会準備に関して

- 公開講演会

- ・講演会のタイトルは 「歴史地震から防災を考える -東日本大震災を踏まえて-」 とする。
開催形式は歴史地震研究会・新潟大学共催とする(確認事項)。案内チラシ・ポスターは、200~300字の趣旨説明を入れるものと入れないものを作る。趣旨説明の文章は武村副会長が作成し、メールで幹事が検討する。

- ・発表タイトルの基本は4月の宍倉案(下記のとおり)とし、多少の改変は可とする。

公開講演会のスケジュールは以下の通りとする。

9月17日 (13:30~17:00)

来賓挨拶5分 主催者挨拶・趣旨説明5分

i. 宍倉正展:「貞観津波と東北地方太平洋沖地震津波」40分 (13:40~14:20)

ii. 松浦律子:「日本海沿岸での過去の津波災害」30分 (14:20~14:50)

20分休憩

iii. 矢田俊文:「明応地震の津波被害と高田地震の地盤災害」30分 (15:10~15:40)

iv. 卜部厚志:「新潟地震の液化化と中越地震の地盤災害」30分 (15:40~16:10)

10分休憩

討論 40分 (16:20~17:00)

宍倉氏の発表では歴史地震の重要性を強調してもらう

来賓挨拶は理事・災害復興科学研究所所長, 副所長センター長, 副センター長など誰か新潟大学の適当な人をお願いする。

確定したら6月の教授会で承認を受けることになる。

- ・広報は、NHK名古屋から歴史地震の紹介をする番組作りの話が来ている。公開講演会の予定が確定したら矢田委員長から連絡する。大学からは記者クラブに情報を提供するのみ。行事委員の個人的なつながりで適宜報道機関に連絡。県・市に後援を求めるには1ヶ月前までに申請する必要あり。

地震学会に後援申請する(林広報幹事)。第四紀学会に情報提供をする(林広報幹事)

- 研究発表会等プログラム

最終的に40件の発表申し込みが来ている。7件をポスター発表として、初日は10時開始。公開講演会前は12時までで終了で、そのほかのプログラム編成は宍倉行事委員に一任する。アルバイトは2人×2日間とする。時給1000円とする。

- 巡検

9月18日 8:30新潟駅南口出発・16:30直江津解散後新潟帰着で時間を組む。

昼食の場所と細かなコースは矢田委員長・卜部委員に一任。参加費は食事込みで1人6000円とする。

- 新潟大学附属図書館の公開展示

9月から2ヶ月にわたって新潟大学附属図書館主催で駅南キャンパスにて歴史地震展を開催する。(矢田行事委員長)大会中の2日間は多めの資料展示を行う。場所はポスター展示スペースと同じ部屋を用いる。(ポスター展示スペースは十分あり)

- 9月17日の懇親会

懇親会は18時開始にする。1人5000円、学生割引は3000円とする。立食形式とする。

招待者について:少人数ならば食事人数分を減らすだけでよい。

飲み放題は良い方@2500円+食事は適宜組み合わせる。詳しくは卜部行事委員に一任

懇親会の司会:松浦幹事 挨拶は矢田行事委員長 中は適当にスピーチ頼む 後の締め:武村副会長

- 総会

議長は一応一名松浦幹事が人選し、あらかじめお願いしておく。

総会資料(総務・会計資料・予算・決算など)は次回幹事会で諮る。

- その他

現段階での行事参加申請者状況を幹事に送ること(小松原より)

2. 会誌編集状況

現在 23 ページ確定，総計 100p 程度まで薄くなると予想される．6 月末に編集完了予定．7 月中には出版可能予定．地震後に紙や印刷代が値上がりしている状況にあるため，ページ減少分を考えると例年並みの印刷出版費になる可能性大．（以上松浦編集幹事）

25 号ウェブ版は 6 月 6 日から HP にアップしている（林広報幹事）

3. 入退会者

国土技術政策総合研究所・菅野眞由美氏が退会申請

水木千春氏（北大）・磯田道史氏（茨城大）・杉本めぐみ氏（地震研究所）・櫻井成昭氏（大分県立図書館）・添田仁氏（神戸大）・外岡慎一郎氏（敦賀短大）の 6 名が入会申請

全員の入退会を承認，会員数 227 名に．新入会員には新会誌を送る．

外岡氏は 25 号の購入を希望しているので，小松原からバックナンバー 1 冊を送り，会誌代を振り込んでいただくように求める．1 人の会員より自分が在籍しているか否かを確認したいという問い合わせあり．松浦幹事・諸井幹事が状況を調べて小松原が本人に連絡する．

4. 2012 年度大会準備状況

横浜市史資料室・吉田律人会員が大会企画案を作成．吉田会員が行事委員を担当してくださる予定．会期は 2012 年 9 月 14 日～16 日（金曜～日曜）とする．

横浜市内で半日程度の巡検を企画．会場は横浜開港資料館にて．（定員 80 人）

公開講演会は横浜開港記念館で開催する（研究発表会と講演会で場所を移す）

首都圏形成史研究会と共催にしてほしいという要望．地質学会と日程が重なっても仕方ない．

5. 大船渡市への募金

永井久一会員から，2006 年大会で大船渡市に大変お世話になったことに対する謝意・お見舞いを形で示したいとの意見があり，その是非を議論した．

北原会長が既に大船渡市役所を訪ね，歴史地震研究会名を添えて義捐金をお渡ししてきたので既に不義理とはいえないのではないかと．会員各人が各人の状況に応じて支援してきている．額が少ないと仕方ない．などの理由により，会としてこれから特別な募金活動は行わない．以上の議論を永井会員に意見を受け取った小松原が報告する．

5. その他

大会プログラムは宍倉行事委員が組み，適宜 HP などに掲載する．

6 月 10 日までに地震学会 NL にプログラムを提出すること．

次回幹事会では総会資料案を小松原が作成し議論する．

2012 年度行事担当予定の吉田氏に次回幹事会参加の声をかける（担当武村副幹事）

第 4 回幹事会の日程

2011 年 8 月 29 日(月) 16 時から地震予知総合研究振興会会議室にて開催予定．

第 28 回歴史地震研究会(2011 年 9 月 16～18 日) プログラム等

■第 28 回歴史地震研究会(新潟大会)のお知らせ 第 2 報

歴史地震研究会では，9 月 16 日（金）から 18 日（日）の 3 日間にわたって，新潟市にある新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」で第 28 回歴史地震研究会大会を開催いたします．研究発表会のほか 17 日午後には新潟大学災害・復興科学研究所との共催で公開シンポジウム「歴史地震から防災を考えるー東日本大震災を踏まえてー」を開催します．また 18 日は 1751 年高田地震による名立崩れ跡などを巡る現地見学会を行います．

会場：新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」 JR 新潟駅南口から徒歩 1 分 PLAKA 1 2 階
（懇親会は研究発表会会場と同じ建物にあるチサンホテル新潟にて開催）

プログラム

9月16日(金) 9:30～ 受付開始 研究発表会・シンポジウム参加費(含予稿集代):

歴史地震研究会会員 1,000円, 非会員 2,000円(学生は無料)

I 歴史地震全般(10:00—12:00)

1. 中西一郎: 小川琢治博士の地震調査フィールドノート: 1909年姉川地震, 1923年関東地震, 1936年河内大和地震
2. 植村善博: ニュージーランド, 1931年ホークスベイ地震におけるヘイスティングスの被害と復興
3. 加藤祐三: 八重山地震津波での性別死亡比と全死亡率との関係
4. 石橋克彦: 古代・中世地震史料データベース構築において実在が否定ないし疑問視された地震(序報)
5. 武村雅之: 震災予防調査会報告100号の今日的意義
6. 松浦律子・松田時彦・津村建四朗: 歴史地震研究で重要な「問い続ける態度」—今村明恒の功罪からの教訓—
7. 木村玲玖・田村圭子・井ノ口宗成: 新学習指導要領「生きる力」に対応するための歴史地震学習のあり方
8. 樋口茂生: 近世～現代生成層—震災との関連で—

昼休憩(12:00—13:00)

II ポスター発表(13:00—14:00)

9. 原田智也・佐竹健治: 日本海溝北部～千島海溝沿いで1913～1950年に発生した(巨)大地震の時空間分布
10. 林能成: 歴史災害の教訓はいかされたのか?～2011年東北地方大津波の聞き取り調査から～
11. 武村雅之: 仙台平野の津波調査あれこれ
12. 都司嘉宣: 安政江戸地震(1855)による寺院倒壊被害分布
13. 金幸隆: 関東地震のタイプ分けと再来間隔に関する研究の整理(2): 地形の形成年代に関して
14. 藤原 治・矢田俊文・倉倉正展: 絵図の比較から見た宝永地震前後での静岡県牧之原市における海岸線の変化
15. 小松原琢: 近江盆地南部の活構造と元暦二年地震の起震断層に関する考察

III 関東の地震(14:00—15:15)

16. 石辺岳男・岡村 眞・佐竹健治・島崎邦彦(発表者)・須貝俊彦・千葉崇・松岡裕美・藤原 治: 三浦半島小網代湾内でのジオスライサー掘削で得られた津波堆積物
17. 村岸 純: 1703年元禄関東地震による被災地域の生活環境の変化
18. 吉田律人: 関東大震災と全国規模の軍事動員—新潟県駐屯部隊の視点から—
19. 中西一郎: 1923年関東地震直後の京都帝国大学の活動: 京都大学に残る記録(2)
20. 石辺岳男・佐竹健治・島崎邦彦・室谷智子・西山昭仁: 1885年以降の「M7級首都直下地震」の類型化

IV 越後の地震(15:15—16:00)

21. 古川信雄: 震源再決定による1964年新潟地震の断層面推定
22. 河内一男: 越後の古代図に見る津波記録の検証
23. 羽鳥徳太郎: 新潟県～石川県沿岸の津波累積エネルギー分布

休憩(16:00—16:15)

V 南海トラフの地震(16:15—17:45)

24. 都司嘉宣・小網汪世: 明応東海地震(1498)による、駿河湾沿岸の津波被害
25. 松崎伸一・川崎真治・荻山和樹, 西谷 淳, 土屋 悟: 『玄與日記』が記す「かみの關」地点とはどこか(1596年豊後地震)
26. 中村 操・松浦律子: 宝永地震翌朝の駿河の地震について
27. 齊藤剛彦, 三神 厚: 南海地震の証言に基づく震源特性の検証

28. 井若和久, 上月康則, 山中亮一, 村上仁士: 徳島県における地震・津波碑の活用について
 29. 三神 厚, 辻野早季子: 1946年昭和南海地震による高知市の河川堤防被害とその要因

歴史地震研究会総会 (18:00—19:00)

9月17日(土)

VI 東北の地震・噴火 (8:30—10:15)

30. 平川一臣・西川由香・吉岡祥一・中村 衛: 新発見, 過去6000年間の三陸超巨大古津波履歴を示す二つの露頭
 31. 神田克久・武村雅之: 東北地方太平洋沖地震と歴史地震の震度インバージョン解析
 32. 行谷佑一・佐竹健治・藤井雄士郎・山木 滋: 西暦869年貞観地震津波と2011年地震津波の波源の比較
 33. 杉本めぐみ 北原糸子: 東北の津波記念碑の被害と防災のための修復の必要性について—東日本大震災とスマトラ沖地震の比較—
 34. 伊野忠昭: 1896年(明治29年)三陸地震津波災害と復興 青森県三沢市の例
 35. 白石睦弥: 1766年明和津軽地震における津軽領の被害と震度
 36. 林信太郎: 鳥海山1801年噴火史料の再検討

休憩 (10:15—10:30)

VII 京都・近江の地震 (10:30—11:30)

37. 川崎一朗・高橋昌明・北原糸子・岡田篤正・鈴木祥之・中西一郎・石橋克彦: 京都御所の泉殿と地震殿の現地調査報告
 38. 石橋克彦: 歴史地震の京都有感記録に対する注意点の興味深い実例—花園上皇による地震動の考察
 39. 石橋克彦: 1819年文政近江地震の全史料の表と改訂震度分布
 40. 西山昭仁: 近世京都における地震災害の特徴

VIII 特別講演 (11:30—12:00)

41. 宇佐美龍夫: 歴史地震について(遺言にかえて)

公開シンポジウム (13:30—17:00)

「歴史地震から防災を考える —東日本大震災を踏まえて—」

司会 武村雅之(小堀鐸二研究所)

13:30-13:40 あいさつ

13:40-14:20 宍倉政展(産業総合技術研究所) 「貞観津波と東北地方太平洋沖地震」

14:20-14:50 松浦律子(地震予知総合研究振興会) 「日本海沿岸での過去の津波災害」

14:50-15:10 (休憩)

15:10-15:40 矢田俊文(新潟大学) 「明応地震の津波被害と高田地震の地盤災害」

15:40-16:20 卜部厚志(新潟大学) 「新潟地震の液状化と中越地震の地盤災害」

16:20-16:30 (休憩)

16:30-17:00 総合討論

懇親会 (18:00～) チサンホテル新潟

参加費: 5000円(学生: 3000円)

9月18日(日)

巡検 8:30 新潟駅南口出発

1751年高田地震による名立崩れ跡など見学予定

16:30 直江津駅にて解散予定

参加費: 1人6000円(昼食込み)

発表者の皆様へ

・口頭発表の皆様へ

1 講演あたりの発表時間は質疑応答を含めて 15 分です。1 鈴を 10 分，2 鈴を 12 分，3 鈴を 15 分に鳴らします。2 鈴で発表者は講演を終了して下さい。PC 接続可能な液晶プロジェクタ（PC は発表者が持参願います）が使用できます。OHP、スライドプロジェクタは使用できませんのでご注意願います。また事前に PC の接続確認を行い、会の円滑な進行にご協力頂きますようお願い致します。

・ポスター発表の皆様へ

ポスターボードのサイズは第三報でお知らせいたします。ウェブなどをご覧ください。ポスター発表は研究発表会 1 日目に予定されておりますが、掲示は大会期間を通じて可能です。

各種申し込みについて

研究発表の申し込みはすでに締め切りました。

1. 予稿原稿の投稿

発表 1 件につき A4 サイズ 1 ページ、カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿をご用意願います。白黒印刷に配慮した作成（特に図や写真）をお願いいたします。原稿は原則として Word ファイルを電子メールでお送りください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7 月末日必着といたします。

※予稿原稿の送付先：

電子メールの場合：rekishi.11@m.aist.go.jp（行事委員会：矢田俊文、卜部厚志、宋倉正展）

郵送・ファックスの場合：〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7

産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター 宋倉正展 宛

ファックス：029-861-3803

2. 懇親会・巡検の申し込み

電子メール、ファックス、郵便のいずれかにてお申し込み下さい（7 月末日必着）。巡検の申込においては保険加入のため、氏名のほか住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。巡検のバスは定員 39 名ですのでお申し込みは先着順となります。

※懇親会・巡検の申し込み先：予稿原稿の送付先と同じです。

注意事項

研究会では宿泊の手配はいたしません。新潟駅周辺には多くのホテルがございますので、旅行会社や宿紹介サイト等をご参照いただき、各自ご予約ください。また、昼食は新潟駅周辺の各種レストラン等をご利用ください。以下に会場そば（新潟駅南口側）の主要なホテルを記しておきます。このほか新潟駅万代口側にも格安ホテルから高級ホテルまでたくさんございます。

チサンホテル新潟 シングル¥6,900～，ツイン¥14,000～ Tel: 025-240-2111

ホテルターミナルイン シングル¥5,670～，ツイン¥10,815～ Tel: 025-245-1100

ターミナルアートイン シングル¥6,090～，ツイン¥11,760～ Tel: 025-246-7111

新潟パークホテル シングル¥5,460～，ツイン¥9,240～ Tel: 025-245-5571

『歴史地震』原稿募集のお知らせ

2012 年 7 月発行予定の会誌『歴史地震』（第 27 号）の原稿を募集します。原稿の締め切りは、2011 年 12 月 14 日です。発行までには、査読者による原稿査読，著者による原稿の改訂，編集者が体裁などを整えて印刷所に入稿という手順があり，発行を年度末からずらしました。通年投稿を受け付けておりますので早めの投稿がお勧めです。皆様のご協力が欠かせませんので，ご理解のほどよろしくお願い致します。

『歴史地震』は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し、記事の種別として、論説、講演要旨、報告などを取り扱います。編集委員会では、第 27 号を次の記事を中心に構成する方針です。投稿をお待ちしています。

- (1) 2011 年 9 月の第 28 回歴史地震研究会での発表内容に関連する論文または講演要旨
- (2) 昨年までの研究会で発表された内容、そのほかのオリジナルな内容、各種報告

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております。

1. 編集委員会で編集作業を進めます。
2. 論説については、査読制は取り入れています。少なくとも一人が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし、不備を指摘・訂正していただきます。
3. 原稿を作成する標準的な体裁『歴史地震』の標準形式」を定めています。これは歴史地震研究会の web サイト (<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>) からダウンロードできます。
4. 電子媒体での投稿を奨励します。少なくとも本文は文書ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと、編集作業が効率的に行えます。前記のウェブサイトには、投稿者用のチェックシートもありますので、ご利用ください。
5. 最終原稿は、印刷物としての『歴史地震』のほか、PDF 版として歴史地震研究会のウェブサイトで一般に公開します。原則として、印刷物はモノクロで刊行します。
6. その他詳細は、次の編集規定をご覧ください。また、以下のチェックを投稿前をお願いいたします。

『歴史地震』への投稿前チェック項目

- ・ 原稿は標準形式のワードファイルですか？
標準形式は、A4 用紙で、左右の余白が各2cm、上下の余白は各2.5cm、フォントは和文が明朝体、英文がTimes、句読点は「,」と「.」です。和文タイトル16 ポイント(以下pt と略)英文タイトル12pt、所属・著者名は10.5pt英文要旨も10.5pt。著者の連絡先は和文の所属に脚注として加えてください。
キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入してください。
ここでセクションを切り替えて、本文は2 段組で段の横幅8cm、段の間は7mm 程度とすれば本文は10.5pt で1 行22 文字、1 ページ45 行となります。
 - ・ 原稿の種別は？ 論説・資料 ・ 講演要旨 ・ 報告・紹介 ・ 研究会記事
論説・資料は査読があります。
 - ・ 標準形式でA4 刷り上がりページ数は？
原稿種別によって規定より長いとページ超過料金が発生します。
 - ・ 論説・資料の場合は以下のものが揃っていますか？
和文と英文の表題 和文と英文の著者と所属 英文200 語程度の長さの要旨
英文5 語程度のキーワード 本文(和文、図表、引用文献)
 - ・ その他編集担当にご連絡があれば原稿送付時のメールか添え状にご記入ください。
特にカラー口絵にしたい図がある場合は、その旨、明記してください。費用負担は図にもよりますが、最低1 ページ1 万円程度の出費は覚悟が必要です。また、紙別刷りをご希望の場合にも、投稿時に明記してください。
 - ・ 本文中で和暦と西暦が混同される危険はないですか？
歴史地震研究会では和暦は漢数字、西暦はアラビア数字を推奨しております。
 - ・ 1582 年以前の西暦はユリウス暦ですか？あるいは暦が明記されていますか？
- 以上の項目をご確認のうえ、投稿いただきますよう、お願い申し上げます。

歴史地震研究会会誌編集規定(2007年10月4日制定, 2009年7月23日一部改定)

総則

1. 本規定は、歴史地震研究会(以下、本会)の会誌の投稿、査読、編集および出版に関する手順と規則を定めるものである。
2. 本会が発行する会誌の名称は、『歴史地震』とする。英文では、**Historical Earthquakes** と表記する。
3. 本会の会員は、会誌に原稿を随時投稿できる。また、会員以外からの投稿も適宜受け付ける。
4. 編集出版委員会は、会員または会員以外に記事の執筆を依頼することができる。
5. 本誌の質を高めることを目的として、査読制を採用する。査読の対象とする記事の種別、および査読の手順と基準は、細則に定める。
6. 会誌の記事の投稿から出版までの順序は次のとおりとし、詳細は細則に定める。
 - (1) 投稿者は、編集出版委員会に原稿を提出する。
 - (2) 編集出版委員会は、投稿された原稿を速やかに受け付け、受付日を記録する。また、原稿毎に編集出版委員会の構成員のうちから編集担当者を決定する。
 - (3) 編集担当者は、投稿された原稿を細則に定める基準に従って点検し、必要と判断した場合は、著者に修正を要求することができる。
 - (4) 査読の対象となる原稿は、以下の査読手順を経ることとする。
 - a) 編集出版委員会は、会員または会員以外から査読者を選定する。
 - b) 査読者は、細則に定める基準に従って原稿を点検し、編集出版委員会に意見を提出する。
 - c) 編集出版委員会は、投稿された論文の掲載の採否を、査読者の意見に基づいて決定する。
 - (5) 編集出版委員会は、掲載を可とした原稿について、受理日を記録する。
 - (6) 投稿者は、原稿を校正および清書した後、最終原稿を編集出版委員会に提出する。
7. 各事業年度の会誌の発行号数および部数は、総会が決議した事業計画に沿う。また、会誌に掲載した記事は、本会のホームページで公開する。
8. 会誌に掲載された記事の著作権は、本会に帰属する。

細則

(原稿の種別)

1. 会誌は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成する。記事の種別は、論説・資料、講演要旨、報告・紹介、研究会記事とする。
2. 記事の種別は、次の基準で分類する。
 - (1) 論説・資料は、次のいずれかであり、査読の対象となる。
 - a) 著者による未発表の新知見を含む研究成果を記した論文
 - b) データ・文献・史資料を系統的に収集・整理・分類し、研究に寄与する価値を有する論文
 - (2) 講演要旨は、直近の研究発表会または講演会で発表済みの研究成果の要旨である。
 - (3) 報告・紹介は、研究集会の報告、研究プロジェクトの紹介、著書の紹介など、新しい情報に関する短い記事である。
 - (4) 研究会記事は、本会の活動に関する報告または連絡の記事である。原則として、幹事会または各委員会が執筆する。
3. 記事の刷り上り時の分量はA4判で、論説・資料は3～20頁、講演要旨は1～2頁、報告・紹介は4頁以下を標準とする。ただし、編集出版委員会が特に必要と認めた場合は、この限りではない。
4. 記事の構成は、次のとおりとする。
 - (1) 論説・資料および報告・紹介は、表題(和文と英文)、著者・所属(和文と英文)、要旨(英文 200語程度)・キーワード(英文 5語程度)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、報告・紹介では、要旨とキーワードを省くことができる。論説には対象とした地震名を引用文献の前に明記する。

(2) 講演要旨は、表題(和文)、著者・所属(和文)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、英文で表題、著書・所属を加えてもよい。

(投稿者)

5. 投稿者は、記事の種別、著者の連絡先を明記して、郵送または電子メールで編集出版委員会宛に原稿 1 部を提出する。A4 判の用紙で標準書式にならって原稿を作成することが推奨される。
6. 依頼により原稿を執筆する著者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
7. 投稿者は、編集出版委員会から査読者の意見と編集者の判定を受け取った後、原稿を点検し、必要な修正を加えた修正稿を編集出版委員会に提出する。
8. 投稿者と査読者の意見が対立した場合は、投稿者は編集担当者に対して、編集出版委員会が別の査読者を選定して意見を求めるよう請求できる。
9. 投稿者は、編集出版委員会からの受理の通知後、高品質に印刷した最終稿および電子原稿をすみやかに編集担当者に提出する。電子原稿は、編集出版委員会が定める標準書式に従って作成することが推奨される。
10. 投稿者は、付則に定める掲載料を支払わなければならない。

(編集担当者)

11. 編集担当者は、投稿された原稿を以下の点について判定する。
 - (1) 明白な誤りがないか
 - (2) 内容が会誌の対象の範囲に合致するか
 - (3) 記事の種別が適切か
12. 論説・資料として投稿された原稿について、編集担当者は、細則 11 項による編集担当者自らの判定と、査読者の意見を基に、原稿の取り扱いを次の中から決定する。
 - a) 掲載可
 - b) 修正を条件に掲載可
 - c) 修正後に再査読し、その後に再度判定
 - d) 編集出版委員会で協議して取り扱いを判定
 - e) 掲載不可
 - f) 原稿種別の変更ただし、原稿の不備が改善しうると期待できる場合は b)、原稿種別を変更すべき場合は b)、原稿に相当大幅な修正を要する場合は c)、複数の査読者の意見が大きく異なる場合は d)、原稿に修正困難な明白な誤りがある場合は e)、細則 1 項に定める会誌の対象の範囲に合致しない場合には e)、原稿種別を変更して掲載する場合には f)、と判定する。但し、f)の場合には原稿の文末に編者注を付け、編集者により変更に至った経緯を明記する。

13. 講演要旨および報告・紹介の編集担当者は、必要に応じて投稿者に修正を求めることができる。

(査読者)

14. 査読者は、査読を通じて会誌の質を高めるよう努める。
15. 査読者数は、論説・資料は 2 名以上とする。ただし、直近の研究発表会または講演会で既発表の内容に基づく原稿については、編集出版委員会の判断で、査読者数を 1 名とすることができる。編集出版委員会が査読者を人選し、依頼する。
16. 査読手続きに必要な郵送料は本会が負担する。また、会員以外の査読者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
17. 査読を依頼され、専門分野などの理由で査読が不可能と判断した場合は、すみやかに、編集出版委員長または編集担当者に通知することとする。また、査読者は、専門分野などの理由で必要な場合、編集担当者を通じて、査読者の追加あるいは会員による助言を要求できる。
18. 査読者は、内容に明白な誤りがある場合、表現が不適切な場合、論理に問題がある場合、原稿の種別が適切でない場合のいずれかに該当する原稿に対しては、改善意見を述べることとする。また、論説・資料につい

ては、細則 2 の要件を満たしているか否かを判定し、編集担当者に対して、原稿の取り扱いについての意見を示すこととする。

(その他)

19. 編集出版委員会は、特定のテーマを設定して会誌の原稿を募集し、会誌に特集を編むことができる。
20. 編集出版委員会は、投稿者の参考のために原稿の標準書式を、査読者の参考のために原稿点検の標準チェックシートを、それぞれ作成する。

付則

1. 掲載料は次のとおりとする

(1) 連絡担当著者が会員の場合

全頁モノクロであり、かつ細則 3 に定める標準の頁数以内であれば、掲載料は無料とする。カラーの頁を含む場合は、モノクロ頁との印刷経費の差額に相当する実費をカラー頁分が掲載料として課される。また、標準の頁数を超過した場合は、会誌発行経費の頁単価に、超過分の頁数をかけた額が掲載料として課される。

(2) 連絡担当著者が非会員の場合

会誌発行経費の頁単価に、印刷時の頁数をかけた額が掲載料として課される。カラーの頁については、会員と同じとする。

(3) 依頼による執筆の場合は、前二項によらず、掲載料は無料とする。

2. 本規定は、2010 年発行の『歴史地震』第 25 号より適用する。

歴代研究会開催地一覧

これまでの開催地と、特集した地震をまとめた。なお 2012 年は候補予定である。

回	年	場所	特集地震	回	年	場所	特集地震
1	1984	東大地震研		16	1999	伊賀上野	伊賀上野
2	1985	東大地震研		17	2000	長野	善光寺
3	1986	東大地震研		18	2001	象潟	象潟
4	1987	東大地震研		19	2002	立山	飛越
5	1988	静岡		20	2003	佐倉・九十九里	元禄
6	1989	東大地震研		21	2004	鳥羽	安政東海
7	1990	大阪		22	2005	江戸東京博物館	安政江戸
8	1991	徳島		23	2006	大船渡	明治・昭和三陸・チリ津波
9	1992	東大地震研		24	2007	下田	安政東海
10	1993	江戸東京博物館		25	2008	つくば	関東
11	1994	須崎	安政南海	26	2009	大津	姉川・元暦
12	1995	田老町	明治・昭和三陸	27	2010	東大地震研	
13	1996	田辺	昭和南海	28	2011	新潟	名立崩れ
14	1997	島原	島原	29	2012	横浜	関東
15	1998	浜名湖	明応東海	30	2013		

歴史地震研究会への入会手続きのご案内

歴史地震研究会に入会をご希望の方は、次頁の申請書に必要事項を記入して、係(諸井幹事)までお送り下さい。

送り先:(株) 小堀鐸二研究所 諸井孝文 (当会財政委員長)

〒107-8502 東京都港区赤坂 6-5-30

FAX:03-5561-2431 電子メール: moroi@kajima.com

歴史地震研究会入会申請書

歴史地震研究会会長 北原 糸子 殿
 歴史地震研究会への入会を申請いたします

年 月 日

ふりがな 氏名		関連分野	
生年月日	年 月 日	性別	男 ・ 女
所属機関	名称・部署		
	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒 TEL: FAX:	
自宅	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒 TEL: FAX:	

----- きりとり -----

- 注 1: 申請書に記された情報は歴史地震研究会の活動以外の目的には使用しません。
 注 2: 会員に配布される名簿に記載されることを希望しない項目は()内に記入してください。
 注 3: 会誌送付先を太字または下線付きなどで強調して記してください。

名簿欄記入例 (自宅情報は非開示, 所属先に会誌送付希望の場合)

ふりがな 氏名	じしん さぶろう 地震 三郎	関連分野	災害科学
生年月日	19〇〇年 〇〇月 〇〇日	性別	(男) ・ 女
所属機関	名称・部署	歴史地震研究所・災害研究課	
	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒000-0001 東京都弥生区文京 1-1-1 TEL: 00-0000-0001 FAX: 00-0000-0002 〇〇@〇〇. 〇〇	
(自宅)	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒000-0001 東京都弥生区文京 マンション耐震 1-1 TEL: 00-0000-0003 FAX: 〇〇〇@〇〇. net.jp	

歴史地震研究会会則

(2000年10月1日制定, 2002年9月7日改定, 2006年9月16日改正, 2008年9月14日改正)

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、『歴史地震研究会』(The Society of Historical Earthquake Studies)という。

(目的)

第2条 本会は、歴史上の地震ならびにそれに関連する諸現象・諸問題に関して、理学、工学、人文科学、社会科学、および防災科学の研究を促進し、相互の情報交換を行うとともに、一般市民を交えた知識の共有と相互理解をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究成果発表会および講演会
- (2) 会誌の刊行
- (3) 広報活動
- (4) その他、必要な事業

(事務所)

第4条 本会は、事務所を東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所内に置く。

(事業年度)

第5条 本会の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

(会則改正)

第6条 この会則は、総会において、表決権を持つ出席者の3分の2以上の賛成により、改めることができる。

(規定)

第7条 この会則の実行に必要な規定は、幹事会の議を経て別に定める。

第2章 会員

(会員)

第8条 本会は次に定める会員からなる。

(1) 会員 本会の目的に賛同する個人

第9条 会員は付則に定める年会費を、各年度始めに納入しなければならない。

(会員の特典)

第10条 遅滞なく会費を納めている会員は、次の特典を有する。

- (1) 会誌の配布を受けること
- (2) 研究発表会において、研究成果を発表すること
- (3) 会誌へ論文などを投稿すること
- (4) 総会に出席し、表決権を行使すること
- (5) 総会または幹事会に対して議論すべき事項を提案すること

(入会)

第11条 会員になろうとするものは、所定の申し込み書を会長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

(退会)

第12条 退会しようとする会員は、会長に退会届を提出しなければならない。この場合、未納会費がある時は、それを全納しなければならない。

(入退会時期)

第13条 会員の入退会は、事業年度を単位とする。

(除 名)

第 14 条 本会の会員として著しく不適切な行為のあったと判断されたものは、幹事会の議を経て、会長はこれを除名することができる。

第 3 章 役 員

(役 員)

第 15 条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副会長 1 名
- (3) 幹 事 5 名
- (4) 監査役 2 名

第 16 条 会長は会員の中から総会で選出する。

2 副会長および幹事は会長が会員の中から委嘱する。

3 監査役は会員の中から総会で選出する。

4. 会長および監査役の選出手続きは付則に定める。

第 17 条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長不在時には会長を代行する。

3 幹事は幹事会を構成し、かつ総務、財政、行事、広報、編集出版の各委員長をつとめる。

4 監査役は本会の業務の執行および会計を監査する。

5 各委員会の委員は委員長が選任し会長が委嘱する。

第 4 章 総会および幹事会

(総会の招集)

第 18 条 総会は年 1 回、会長が招集する。総会は会員の 10 分の 1 の実出席を要する。委任状は発行しない。

(総会の決議事項)

第 19 条 総会では次のことを行う。

- (1) 次期会長の選出
- (2) 次期監査役の選出
- (3) 前年度の事業経過および決算報告と、その承認
- (4) 次年度の事業計画および予算案の提案と、その承認
- (5) 会則の改正
- (6) その他

(幹事会)

第 20 条 幹事会は会長が招集し年 2 回以上行う。議長は会長が行う。その他幹事からの提案で、臨時に開くことができる。幹事会は幹事の 2/3 以上の参加をもって成立し、決定は出席者の過半数をもって行う。幹事会は代理出席を認める。

第 5 章 会 計

(資 産)

第 21 条 本会の事業は会費、寄付金、事業に伴う収入および雑収入によって行う。

(事業計画・予算案)

第 22 条 本会の事業計画およびこれに伴う予算は、会長および財政委員長がこれを幹事会の議を経て作成し、総会の議決にもとづき執行する。

(事業計画・収支決算の監査)

第 23 条 本会の事業報告および収支決算は、会長および財政委員長がこれを作成し、監査役の監査を経て幹

事会および総会において承認を受けなければならない。

付 則

第 1 条 第 10 条による会費は、次の通りとする。

会員 3000 円

第 2 条 第 16 条による会長選出手続 会長候補者は 3 名以上の推薦者をもって立候補し、総会の 1 週間前までに幹事会に届け出る。

第 3 条 第 16 条による監査役選出手続 監査役は 3 名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される。推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出る。

第 4 条 本会則は、2008 年 9 月 15 日から施行する。

組 織

総務委員会

文書の受付, 配布, 会誌『歴史地震』の発送

歴史地震研究発表会の開催に関する事項

財政委員会

予算の編成, 決算に関する事項および研究会の財政に関する企画

普通会员の入退会, 除籍に関する事項および名簿に関する事項

行事委員会

歴史地震研究発表会の開催に関する事項および他学会協賛に関する事項

広報委員会

歴史地震研究発表会および会誌『歴史地震』の広報に関する事項

編集出版委員会

会誌『歴史地震』の編集出版に関する事項

歴史地震研究会役員および委員名簿

役員名簿

会長 北原糸子

副会長 武村雅之

幹事 小松原琢, 林能成, 松浦律子, 諸井孝文, 矢田俊文

監査役 永井九一, 中村操

委員名簿

総務委員会 委員長 小松原琢

財政委員会 委員長 諸井孝文

行事委員会 委員長 矢田俊文 委員 卜部厚志, 宍倉正展

広報委員会 委員長 林能成, 委員 小山真人

編集出版委員会 委員長 松浦律子, 委員 金田平太郎, 白石睦弥, 行谷佑一